

## 事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日:令和 5年 3月 20日

公表:令和 5年 3月 27日

事業所名 幼児グループにじこ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	9		裏庭やテラスを利用し広さを確保できている。散歩も取り入れ、のびのびと身体を動かせるよう工夫している。人数が多い時には分散して活動している。物置が手狭で物があふれている。	今後もわかりやすいエリア設定等を行うと共に、新たにできた広場スペースを整備し、遊具も増やし、有効に活用していきたい。物置も整理整頓を心がける。
	2	職員の配置数は適切である	9		基準値以上配置され、勤務時間も確保されている。	資格取得も含め、引き続き体制を整えていく。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	9		バリアフリーについては玄関等に段差はあるが、折り畳み式スロープの用意がある。テラスと室内の段差をなくしている。刺激を減らし、必要な情報が入りやすい環境を心掛けている。訓練室はなるべく物を置かずスペースが作られている。トイレや洗面台に足台を置いたり、写真カード等を使用し要求を伝えやすいよう配慮されている。	今後も写真カード等の内容、表示の仕方の見直し等、誰にとってもわかりやすい環境整備を行っていく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	9		毎日の掃除、消毒、換気を徹底して行っている。暑さ寒さや新型コロナウイルス対策等配慮されている。必要な物のみ出し、なるべく物を置かない、危険な物はしまし、角等はコーナード覆う、フロアにはジョイントマットを敷く等、子どもが過ごしやすいよう配慮されている。	今後も施設内外の整理整頓、清掃、消毒を心がけ、環境を整えていく。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	9		事業目標については、主に常勤職員が参画している。	日々の振り返りだけでなく、事業所全体の目標に向けた取り組みについての情報共有をしていく。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	9		毎年評価を実施し、集計後HPで公表。改善点についても公表している。日々の保護者との話し合いの中で意向を把握している。	把握した意向について迅速に検討、改善につなげていく。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	8		年に1度HPに公開している。	評価表については、常勤職員が回収、評価を行いHPで公開しているため、公開するだけでなく、その内容を全職員で共有する機会を設ける。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	4	2	以前行ったが、定期的には受けていない。	次年度は災害対策としての防災委員会の強化に取り組みしたい。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	9		全職員対象の年4回の内部研修をはじめ、Zoomやオンラインにより研修の機会が増えている。業務時間内の受講ができており、参加したい研修の希望が出せている。外部研修については偏りがある。	内部研修については、どの職員にも必要な内容を設定しているが、職員のキャリア等にに応じ求める内容の幅も広がってきているため、個別のキャリアや興味に応じた個別の研修についても積極的に受講の機会を設けたい。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	9		担当職員が半年に1度、面談を行い作成している。面談時に、保護者ニーズを聞き取り、職員間ではケア会議や個別支援会議でニーズや情報を共有している。	今後も他機関での情報を共有しながら、丁寧な面談を心がけていく。
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6	1	子ども1人1人の毎日の様子をまとめるファイルができたが、ツールとしてはまだ使用していない。利用開始時には使用している。	個別の発達検査の結果を普段の支援に生かしていく。また、行動分析の仕方については今後検討していきたい。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	8		子どもの現在の様子に合わせ、具体的な支援内容が設定されている。	ガイドラインの掲示を行い内容の周知を行っていく。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	9		日々の振り返りや申し送り、前日や当日の朝等、丁寧に支援計画を確認している。	引き続き情報を共有し、丁寧に行っていく。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	9		毎日の振り返りには勤務した全職員が必ず参加し、個別目標や課題の検討も全職員が参加している。個別支援会議には非常勤も含めて行われている。必要に応じ児童発達支援管理責任者がケア会議を行い、課題の見直しや目標設定等も行われている。	引き続き意見交換の機会を設けていく。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	9		毎年のプログラムは固定化されているが、その中でも子どもの様子によってアプローチを変化させたり、前年度と重ならないよう工夫している。同じような課題では素材を変えたりしている。主な活動プログラムは毎月変更している。	引き続き、子どもの特性に応じて、工夫を重ねていく。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	9		個別の課題と集団でのコミュニケーション等を組み合わせ作成している。	専門家の意見や他機関の計画内容も参考にしながら、内容の充実を図りたい。
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	9		前日、当日ともに、可能な限り時間を取って打ち合わせを行い内容を確認している。また、ホワイトボードに毎日の役割や担当を記入している。	引き続き、情報を共有し、確認をしていく。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	9		毎日振り返りを行い共有している。ヒヤリハットや子どもの様子の共有、気付いたこと、保護者からの相談等話し合う機会がある。振り返りでは全職員が発言できる機会を設けている。	引き続き、全職員の意見等が反映できるような機会を設ける。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	9		個別記録の記入を毎日行い、漏れや訂正がない児童発達支援管理責任者がチェックしている。	より分かりやすくポイントを押さえた記述のスキルアップを図る。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	9		6ヶ月毎に見直しを行い、必要があれば都度見直しをしている。	引き続き必要に応じ見直しをしていく。

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	9		サービス担当者会議の設定はほとんどないが、モニタリングの際に情報交換を行っている。感染症拡大防止に努めながら少しずつ対面での会議も増えており、児童発達支援管理責任者が参加できている。	必要に応じ積極的に参画していく、また、そのことを保護者に周知していく。また、職員間適宜情報を共有していく。
	22	母子保健や子ども子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	9		区のSTの技術支援、子ども家庭支援センター、乳幼児育成課、すくすくメッセ等と連携し、生活全体の支援に繋がるようにしている。	来年度は関係機関に直接訪問し、連携を深め、支援を繋げていきたい。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	4	3	重症心身障害児については、保護者を通じて情報の共有をしている。	関係機関と直接情報を共有する機会を設けたい。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	2	5	保護者を通じて情報を得ようとしているが、直接事業所とのやり取りができていない。相談支援事業所を通じ、より連携していきたい。保護者を通じて行っているため、できることに限りを感じている。緊急連絡先等は把握している。	保護者を通じ、関係医療機関との情報を密にとれるようにしたい。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7	1	利用児の保育園、幼稚園とは図れているが、全てではないため今後より積極的に行えとよい。新型コロナの影響でできていなかった保育園の先生の訪問受け入れがあった。こちらからも出向いて共有が図れるとよい。	来年度は、状況を踏まえながら、積極的に情報共有等を進めていきたい。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7	1	就学に向けた支援シートで情報提供を行っている。今のところ支援シートのみの情報共有となっている。	保護者OBを招いて就学勉強会等を行い学校の情報を得ていく。引き続き支援シートを丁寧に作成していく。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	7	1	今年度より再開された。年に1回(ST)の技術支援を受けたが、もう少し頻度が上がるとよい。	来年度は、機会を増やせるよう、各機関と連携し、検討していく。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		8	事業所としての機会はないが、保育園・幼稚園を並行利用している子が多く、個別にそのような機会を得ている。子ども同士の直接的な交流はない。保護者のニーズに寄り添いたい。	必要に応じ検討していく。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども子育て会議等へ積極的に参加している	9		自立支援協議会委員として担当者が参画している。	引き続き積極的に参加し、現場からの声を届けていきたい。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	9		連絡ノート、個別記録、口頭、面談、LINE、メール、電話、おたより等で共通理解を図っている。	さらに発達支援と保護者支援のスキルアップを図っていく。
保護者への説明責任等	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	5	3	音楽療法の勉強会がそれに当たるが、参加していない保護者にはプログラムとしては行っていない。新型コロナの影響もあり、直接的なあつまりとしては行っていない。	職員自身が保護者支援のスキルを身につけるよう、また、地域の情報や制度について精通するよう研鑽を積んでいく。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	8		契約時に丁寧に伝えている。変更や質問があった場合もその都度行っている。	今後も丁寧にやっていく。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	9		半年に1度の面談で同意を得ている。	今後も丁寧にやっていく。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	9		6ヶ月に1度の面談の他、必要に応じて話す機会を持っている。	今後も丁寧にやっていく。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	9		自主的な父母会の連絡網等についてトラブルにならないよう、相談に乗ったり、場所の提供を行っている。保護者会、ミニバザー、茶話会等で交流の機会を設けている。保護者からの申し入れで草むしりや花壇の整備がされている。利用曜日が異なる保護者間の間に入り、繋ぐこともある。	保護者の意見を取り入れながら、適宜開催していく。柔軟に対応していく。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	9		都度行い、すぐに応じられない場合も職員間で検討し、保護者に結果を伝えている。	今後できる限り対応していく。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	9		年4回の季刊誌、にじのこだより、HP、玄関掲示板等で発信している。	今後も適宜行っていく。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	9		同意書により丁寧に説明し、承諾を得ている。取り扱いについても同意書に従って注意されている。	今後も徹底していく。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	9		子どもにはジェスチャーや絵カード等、特性に応じた対応をしている。保護者へは丁寧な言葉かけを心がけ、家庭やご家族の状況に応じたやり取りを行っている。口頭で伝えきれない場合は連絡帳の他メール、LINEも活用している。	今後できる限り対応していく。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	5	4	地域に参加していただくような行事は行っていない。掲示板等をより活用したい。新型コロナの影響で大勢で行うことが現実的でないため、他の方法を検討する必要がある。ミニバザーでは近隣との交流を図ることができた。	適宜検討していく。

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	9		新型コロナ対応ガイドラインを配布し、それを基に対応している。避難訓練、嘔吐処理研修を始め、新型コロナ対策についても職員間で確認をした。地震については避難訓練を行えているが、防犯についてはできていない。	適宜マニュアルの点検見直しをしていく。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	9		年に複数回、定期的に避難訓練を行っている。	避難訓練を定期的に行う。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	9		契約時に説明し、利用者台帳にて把握している。現在にこのこでの服薬はないが、薬の変更があった場合は申し出ていただくように周知している。	新学期毎に書類の更新を行うと共に、状況の変化があった場合に申し出るよう保護者に周知する。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5	3	医師の指示書が必要な利用者は現在在籍していないが、食物アレルギーについては聞き取りを行っている。	医師からの指示についての確認を行う。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	9		毎日の振り返りで確認している。担当職員が報告を集計し、職員間で共有し、解決策等を検討している。	今後も引き続き徹底した確認情報の共有を図る。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	9		年1回は全職員対象の虐待防止研修を設定している。支援方法については、日々職員間で適切に話合っている。オンラインにての研修で受けやすくなった。年に複数回虐待防止委員会を開き、法人内での情報を交換している。	虐待防止委員会の報告等を行う。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	8	1	ベルト付き座位保持椅子を利用するお子さんに関しては説明し、個別記録に利用の有無を記入。個別支援計画に記載し保護者に同意を得ている。	引き続き、身体拘束適正化委員会の開催と従業員への周知、研修等を行う。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。

#### 改善できた点

- 1 室内スペースには限りがあるが、敷地裏に新たに広場を借りることができ、活動スペースが広がった。遊具等、保護者の協力により、徐々に増えており、活動の充実を期待している。
- 2 これまでも職員体制は十分に整えていたが、加えて在勤職員が資格を取得したことで更に有資格者の職員配置整備をすることができた。
- 9 リモートを活用することで、これまでよりも多くの研修に参加する機会を得ることができた。
- 外部研修に関しても、グループ独自に機会を設け、対象となるお子さんが数人いるため、障害理解のスキルアップを図ることができた。
- 15 子どもたちの特性に応じて、課題の内容を考えている。同じ課題でもアプローチの仕方を変える等して工夫をしている。

次年度も今年度の課題や改善点を目標に反映させ事業運営を進めていきます